

## 2016年度 入学試験情報

NEWS!

### 「インターネット出願」に変わります!

一般入学試験と、大学入試センター試験利用入学試験の出願方法が、インターネット出願に変わります。

NEWS!

### TEAPを出願資格として利用する入学試験がスタート!

TEAP(アカデミック英語能力判定試験)を出願資格として利用する入学試験では、事前にTEAPを受験し、学科が設定している出願資格の基準点をクリアしてください。入学試験当日には、学科が指定する科目を受験することになります。

※詳細は、「入学試験 データ&ガイド 2016」および  
本学Webサイトでご確認ください。

#### ◎TEAPを出願資格として利用する入学試験(GSC)

入学試験種別	方 式	技能種類	備 考
一般入学試験(個別学部日程)	B方式	2技能	—
自己推薦入学試験	—	4技能	出願資格(英語資格)の1つとしてTEAPを利用できます。
全国高等学校キリスト者推薦入学試験	—	—	—
海外就学経験者入学試験	—	—	—

○2技能:Reading/Listening ○4技能:Reading/Listening+Writing+Speaking

#### 一般入学試験

Web出願期間	試験日	合格発表日	募集人員	教 科	科 目	試験時間	配 点
全学部日程 1月4日(月)～ 1月23日(土)	2月7日(日)	2月13日(土)	40名	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	80分	150点
				国語	国語総合(古文、漢文を除く)	70分	100点
				地理歴史または 公民または数学	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」、「政治・経済」、「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(数列、ベクトル)」のうち1科目選択	60分	100点
個別学部日程 1月4日(月)～ 2月6日(土)	2月21日(日)	2月27日(土)	A方式 約30名	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	80分	150点
				地理歴史または 公民または数学	「世界史B」、「日本史B」、「政治・経済」、「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(数列、ベクトル)」のうち1科目選択	60分	100点
	2月11日(木)	2月17日(水)	B方式 約30名	国語	国語総合(古文、漢文を除く)	60分	100点
				外国語	TEAP(2技能:Reading/Listening)100点以上を出願資格とします	—	—
				小論文	英語の文章を読み、分析し、日本語または英語で要約を行った後、文章の主題について、自分の意見や発想を論理的に展開し、問題解決を行う力を総合的に問う、日本語または英語の論述等を課す	80分	150点

#### 大学入試センター試験利用入学試験

Web出願期間	試験日	合格発表日	募集人員	教 科	科 目	配 点
1月4日(月)～ 1月16日(土)	1月16日(土) 1月17日(日)	2月10日(水)	10名	国語	「国語」(近代以降の文章)	100点
				地理歴史または 公民または数学	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理・政治・経済」、「数学I・数学A」、「数学II・数学B」のうち1科目選択	100点
				外国語	「英語」(リスニングを含む)	250点

「地理歴史」、「公民」、「数学」について、2教科2科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用します。

入学金を含む初年度納入金合計は、1,556,000円です(2015年度参考)。

#### アドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)

地球社会共生学部は、本学の教育理念を理解し、高等学校で修めておくべき国語、数学、社会などの科目で培われた一定の文献理解力、自己表現力、論理的思考力とともに、グローバル人材に必要な英語資格を目指して持続的に学習する力を備えたうえで、以下のような資質をもった学生の入学を求める。

1. 地球規模の視野を持ち、多様性を受け入れる寛容さを持っている。
2. グローバルな社会の諸課題に対し、強い好奇心・関心を持っている。
3. その問題を解決する方法を学びたいという探究心を持っている。
4. 知識を得ることだけでなく、体験すること、行動することに意欲を持っている。

※カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)については学部オリジナルサイトをご覧ください。



相模原キャンパス:〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1  
JR横浜線「淵野辺駅」より徒歩7分

地球社会共生学部オリジナルサイト  
<http://www.gsc.aoyama.ac.jp>



2015年7月作成

青山学院大学

地球社会共生学部

SCHOOL OF GLOBAL STUDIES AND COLLABORATION





1年 木村 佑人

神奈川・横浜市立  
戸塚高等学校出身

1年 松岡 真遊子

高知・私立  
土佐塾高等学校出身

地球社会共生学部長  
平澤 典男 教授

1年 成瀬 華子

東京・私立東京都市大学  
等々力高等学校出身

1年 有田 現生

カナダ・York Mills Collegiate Institute  
出身

# グローバルな人間になるために 必要な学びって何だろう。

今年の4月にスタートしたGSC(地球社会共生学部)は、社会科学の幅広い学問基盤のもと、  
「共生」マインドを体得したうえで、専門能力を身につけるグローバル系の学部です。

第1期生となった在学生と平澤学部長が本音で語る座談会から、GSCならではの学びが見えてきます。

礼拝からスタートしたFOCは、  
学部が団結するきっかけに。

**平澤学部長(以下、平澤)** 皆さんGSCを  
知ったきっかけと志望動機を教えてください。

**木村** オープンキャンパスで平澤先生の  
お話を伺い、すごくスケールの大きい学部  
だなあと思いました。将来、海外で仕事をし  
たいと思っていたので迷わず「ここだ!」と。

**松岡** 私はJICAやNPOに興味があり、  
その活動と照らし合わせて、高校の先生に  
すすめられました。

**成瀬** 高校にあった大学案内とGSCの  
パンフレットを見て志望しました。高校時  
代にオーストラリアに留学し、大学でも留  
学したいと思っていたので。それから英語  
教育に力を入れているところにも強く惹か  
れました。

**有田** タイやマレーシアに留学できることに  
魅力を感じました。近代社会に移行していく  
かつての日本の姿が現地にはあるはず。  
それを実際に肌で感じ、今後の日本社会に  
必要なものを探究できると思ったからです。  
僕は親の転勤で中学から高校までをカナダ  
で過ごしましたが、英語力をもっと高めたいと  
いうのも志望動機です。

**平澤** GSCは独特的の学部なので、どうい  
うミッションをもっているか入学前に知ってもら

おうと **FOC** を行いました。本学はキリスト教  
信仰にもとづく教育が土台にあるので入学式  
や卒業式では礼拝を行います。ですから、  
学部のFOCもまずは礼拝から始めたんですよ。

**成瀬** 礼拝にはびっくりしました! FOCで  
一番良かったのは友達ができたことです。  
チームごとにディスカッションを繰り返した  
ので、すぐに親しくなれました。

**木村** FOCがない学部もあるんですよね。  
他学部に入学した友達の話を聞くと、まだ  
顔も知らないし、話もしていない人がいるらし  
いです。自分たちは仲の良い状態から入れた  
ことが大きかった!

**平澤** 2日目に解散する時は、みんなLINE  
でつながっていたよね。

**成瀬** 高校時代に思っていたより先生との  
距離がすごく近いことに驚きました。

**松岡** 女子が7割、男子が3割で思ったよ  
り元気な人ばかりですね。ディスカッション  
するときに進んでリーダーになる人がいて  
衝撃を受けたのと同時に刺激をもらって、  
私も頑張ろうと思いました。

**平澤** 学部全体が団結するでしょ。揃いの  
Tシャツを着るだけでも違う。一緒に賛美歌を  
歌い、同じ釜の飯を食べる。ディスカッション  
は学生中心で、プレゼンテーションでは演技  
あり、スライドありで盛り上がりいましたね。

カスタマイズできるカリキュラムで、  
興味の幅が広がっていく。

**平澤** この学部は1つの学部のなかに4つの  
学びが併存し、違う分野の勉強ができるよう  
になっています。なぜなら途上国、新興国で活  
躍できる人を育てる学部だからです。実際そ  
場に立ったとき、ひとりの人間が幅広い分野  
で活躍できるように、**オーダーメイド型の**

**カリキュラム** には多様な科目を揃えました。

**木村** オーダーメイド・カリキュラムは自由に  
取れるのがいいけれど、不安もあります。第1  
期生なので、これを取ったらこうなるというモ  
デルがまだない。自分がなりたい像に向かう  
ためにどうしたらいいのか、いまは手探りです。

**平澤** そういうときに気軽に相談できるよう  
クラスごとに担任がいるんですよ。

**有田** 僕は将来、経済学のほうに進みたい  
と思っています。まず、日本や海外で何が起  
きているのか経済に関する基本知識を修得  
したい。語学力は能力でなく道具に過ぎな  
いと思うのでとにかく向上させたいです。

**成瀬** 私は逆に自分が何を目指したいかが今  
は見えていないから、幅広く学べるのがいい  
です。そのなかで見つけていきたいと思います。

**松岡** 私は最初、国際機関が希望でした。  
でも、授業開始1週目の“お試し期間”で4つ  
の学びにトライして欲が出てきちゃいました。

## CHECK!

### KEYWORD

#### FOC

(Freshman Orientation Camp)

GSCの大学生活は、入学式前に河口湖で実施する1泊2日の「FOC」からスタートします。  
学部ミッションの意識づけを行い、独自の教育プログラムを紹介。その後、チームに分かれ  
ワークショップを行います。2015年度は「留学生が過ごしやすいキャンパスをつくるにはどうし  
たらいいか」「学部を魅力的にするためにどうしたらいいか」をディスカッションのテーマとし、  
2日目にチームごとのプレゼンテーションを行いました。大学生活への不安を払拭し、新入生  
同士が友情を深めるきっかけにつながります。



### KEYWORD

#### オーダーメイド型のカリキュラム

自分の興味や目指す進路に応じて学びたい授業を選び、  
組み合わせることを可能にしたのが「オーダーメイド型のカリ  
キュラム」です。「共生」をキーワードにした4つの専門領域

コラボ  
レーション

ビジネス

メディア/  
空間情報  
ソシオロジー

ごとに、3~4科目で構成されたモジュールという科目群を複  
数組み合わせることによって、一人ひとりのオリジナルのカリ  
キュラムが完成します。

▶ P.05へ

平澤 先生は一人ひとり実務経験も豊かな個性のある人ばかりですよ。

松岡 はい。担任はクラスのLINEでおもしろいイベントを紹介してくれるんです。参加したら世界が変わりました。基本、文系ですが、理系にも魅力を感じ、口ボットってかっこいいなあとか。興味の幅がどんどん広がっていきます。

平澤 1年次で徹底して学ぶ週6コマの英語の授業についてはどうですか？

成瀬 ネイティブの先生と少人数で学ぶ「Academic English」がとても新鮮です。他学部の人に「きつくない？」と聞かれるけれど、楽しくて充実しています。

有田 日本に居ながら授業中に先生とクラスメイトと英語でコミュニケーションができるのは本当に魅力的です。

木村 入学後に「能力別少人数クラス」に分けるテストがあり、自分のレベルに合ったクラスで学べるのがすごくいいです。

松岡 読む・聞くは同じ力でも、書く力には違いがあると感じています。全体的にみんな頑張っていますよね。

平澤 英語で上手にコミュニケーションが取れるのも大切だけど、そのベースになるガツツがもっと大事です。グローバル人材に求められるのは、プレッシャーがあってもね返すタフさんです。

### 海外フィールドワークが必須、全員が異文化を体験する。

平澤 もっともタフさを鍛えられるのが留学ですね。皆さんの留学は他学部の留学とは違って、タイやマレーシアなど、「東南アジアを中心とした地域でのフィールドワークが必須

です。早い話、現地に行かないと経験できないし意味がない。さきほど有田さんが言つたみたいに日本経済が辿った道をタイやマ

レーシアも辿ると思います。ただ同じ道では決してない。きちんと経済成長を遂げないと

地球全体がおかしくなってしまいます。産業が興り、雇用が生まれ、仕事が回る状態にしないと難民が生まれてしまう。そうならない

ためにも日本の理系の技術だけでなく、文系の物事の処し方も伝える。日本にあって現

地にないものがあるし、その逆もある。そこに日本から赴く人のビジネスチャンスがあるで

しょう。それを見出して、体験し感じる。そして、友達を作ることです。

松岡 英語力が前提にあってですが、何を伝えるかが大切だと思います。自分が伝

えたことを簡潔に述べる力と関心の幅を広げ、自分で考える力を身につけたいです。

成瀬 高校時代の留学は語学力を高める

ことがメインでしたが、大学での留学は文化や慣習を中心に知りたいです。自分独自の

切り口から知識を修得したいですね。

有田 タイやマレーシアの学生が社会に出て、技術展開する際の考え方やアイデアを知りたい。自分と違う価値観を目の当たりにしたいです。チュラロンコン大学やタマサト大学は世界的に有名なんですか？

平澤 タイの東大・京大ですよ。王族も多いし、官僚になる人も多い。

木村 僕らタイの東大に留学するイメージですか？ 向学心がかきたてられる学部ですね。

### 第1期生として、学部を育てる責任を感じている。

平澤 「相模原キャンパス」の印象はどうですか。

有田 静かできれいなキャンパスですね。ここは学ぶには最適な環境が整っています。今後、留学生との交流も盛んになるでしょう。

松岡 私のお気に入りの場所はB棟のピュラウンジ。椅子やテーブルがあって和めます。

松岡 英語力が前提にあってですが、何を伝えるかが大切だと思います。自分が伝

えたことを簡潔に述べる力と関心の幅を広げ、自分で考える力を身につけたいです。

成瀬 今、学生組織を作ろうとしています。

学生が自分たちで企画・参加できるようになります。

成瀬 来年、「サークル」を立ち上げたいの

で準備をしています。



木村 え、もう？ 「ボランティア・ステーション」

は青山キャンパスがメインだから相模原でもボランティア活動を活発にしていきたいです。

平澤 GSCをどのような学部に育てていきたいと思っていますか。受験を考えている高校生に伝えたいメッセージはあります？

松岡 さきほど話したように先生が教えてくれるイベントに参加し、多彩な分野で活躍されている方と実際に話す機会もあり、積極的に参加することで世界が広がっておもしろいと感じています。後輩たちにも関心のあることには臆せずチャレンジしてもらいたいです。

成瀬 高校生の頃はまだ将来が明確でないと思うけれど、それでも安心して学べる環境があることを伝えたいです。

有田 高校時代は自分に何ができるのか、どのような能力があるのかわからなくて悩んでいても、この学部はそれらを見つける機会

を与えてくれます。

木村 第1期生の自分たちは、学部を育てることに対して責任があると思っています。

平澤 教職員からGSCの学生は元気があると言われています。あと仲間意識が強いですね。各学部によりそれぞれタイプが異なりますが、GSCはこういう学部だと示すことができれば後輩たちが学部の文化を理解し入学してくれるはずです。皆さんはGSCの学びを通して、どのようなステップアップを目指していますか。

木村 英語を使いこなせるようになって外資系の商社に入り、日本と海外の中継役になります。例えば「差別や貧困と闘う、紛争や情報格差をなくす」。そういう人材を育て

ることが4つの専門領域を有するカリキュラムの最終目標なので、将来の目標をきちんと見つけ、社会に巣立ってほしいと願っています。

### CHECK! 「Academic English」 能力別少人数クラス

入学時に英語テストを実施し、その点数により1クラス約20名の「能力別少人数クラス」を編成します。授業は毎日、ネイティブ講師による「English Only」の環境のなか、学生参加型で行われます。今後、世界最大の英語使用圏になるといわれるアジアや世界のどこででも使える英語「World Englishes」を身につけるための学びを展開。留学生と机を並べて専門科目を学ぶ教育環境も実現します。



▶ P.07へ

### KEYWORD 東南アジアを中心とした地域でのフィールドワークが必須

2年次後期または3年次前期に、タイやマレーシアなど、東南アジアを中心とした地域で半期のフィールドワークが必須となります。急成長する国々へ留学し、そのエネルギーを体感できることがGSCの他にはない特徴のひとつ。留学先の学費はかかりず、渡航費および留学先の寮費の一部は学部から補助されます。なお、学部が推奨する東南アジアへの留学の場合、渡航費・寮費についてはほぼ個人負担がない制度となっています(保険費やビザ申請料、生活費などは別途かかります)。一部地域には現地に本学教員が常駐するほか、危機管理の専門家と連携し、サポート体制を構築するなど、安心して学べる環境が整っています。▶ P.08へ

### CHECK! 相模原キャンパス

2003年にそれまでの世田谷キャンパスと厚木キャンパスを統合する形で「相模原キャンパス」が開学されました。現在は理工学部、社会情報学部、GSCの学生が4年間学びます。JR横浜線の「淵野辺駅」から徒歩7分の場所に位置し、落ち着いた景観と最先端の研究環境が整っています。基調色のイエローが印象的な、緑が豊かで開放感あふれるキャンパスです。



### KEYWORD クラブ・サークル活動 ボランティア・ステーション

「さが祭」とも呼ばれる地域密着型の大学祭を運営している相模原祭実行委員会をはじめ、学部や学科、学年を超えて交流できる「クラブ・サークル活動」も盛んです。2011年の東日本大震災を機に発足した「青山学院大学ボランティア・ステーション」は震災関連の継続的支援のほか、さまざまな社会問題に主体的にアプローチしている団体です。



塩竈での支援活動(ボランティア・ステーション)

# CURRICULUM

目標に合わせて組み合わせられるオーダーメイド・カリキュラムです。

**Cluster**  
分野・領域

**Module**  
科目群

**Cluster** 学問領域のこと。  
「共生」とは何か。そのヒントを4つの専門領域の垣根のない学びを通じて理解し、専門性を高めます。  
**Module** 数科目で構成される学びのまとまりのこと。  
Module内の全講義を受講することで、各々の知識が互いを補完し合い、ひとつの学びを修められます。

1 年次	<b>Fundamental</b> Module Group	学部アイデンティティModule 地球共生学 I・II 世界の青学生業界トップから海外を学ぶ 地球市民論入門	論理的思考Module ロジカル・シンキング入門 クリティカル・シンキング入門 レトリック入門	学問入門Module 知の技法入門 研究手法論入門 基礎演習	フィールドワークModule フィールドワーク論 フィールドスタディー I・II
	<b>Study Skill</b> Module Group	コミュニケーションスキル I Module レポート作成法演習 リーダーシップ論演習 I・II	コミュニケーションスキル II Module コミュニケーション論演習 ビジネスマナー演習 留学準備セミナー	ネットワークスキルModule Web入門と情報リテラシー Webコミュニケーションはじめての空間情報システム	
	<b>Japan Studies</b> Module Group	英語必修Module Academic English(Speaking & Listening) I・II Academic English(Reading & Writing) I・II Academic English(Applied Skills) Academic English(Advanced)	アジアの言語と文化Module アジアの言語と文化 I (タイ語初級) アジアの言語と文化 II (タイ語中級) アジアの言語と文化 III (近代タイ史) アジアの言語と文化 IV ( ASEAN文化基礎)	日本語教育法Module 日本語概論 日本語教授法 文章作成法	
		<b>Cluster 4つの専門領域</b>			
	<b>Introductory</b> Module Group	世界と協力し連携する コラボレーション領域 国際関係論入門Module 国際政治学入門 <b>Pick up!</b> 国際協力論入門 国際開発学入門	世界と協働し同じ価値を共創する ビジネス領域 経済学入門Module 統計学入門 アジアの経済入門 <b>Pick up!</b> 日本経済入門	世界を知る・知らせる メディア/空間情報領域 ジャーナリズムの歴史 情報インパクト論入門 空間情報学入門Module 空間情報システム入門 I・II <b>Pick up!</b>	世界を分析し理解する ソシオロジー領域 社会学入門Module 社会心理学入門 文化人類学入門 <b>Pick up!</b>
2 年次	<b>Basic</b> Module Group	国際開発基礎Module 貧困と開発 國際関係論 人間の安全保障論 アジア地域社会論基礎Module 北東アジア地域社会論 東南アジア地域社会論 南アジア地域社会論 文化歴史学基礎Module 比較文化論 アジアの歴史と文化 アジアの政治と文化	国際経済基礎Module 国際経済学 国際金融論 国際投資貿易論 社会貢献基礎Module 共生の経済学 社会の企業論 NPO/NGO論 経済学基礎Module ミクロ経済学 マクロ経済学 経済統計学	ジャーナリズム論基礎Module メディアの法律と倫理 ジャーナリスト論 メディア・コミュニティ 空間情報学の基礎Module 空間情報学基礎 I・II 空間情報デザイン基礎 空間的思考 メディア論基礎Module グローバル世論動向論 文化資源とメディア グローバル社会メディア論 空間情報技術の基礎Module 空間情報の取得技術 空間情報の表現技術 空間情報の共有技術	社会学基礎 I Module 社会学概論 グローバリゼーションの社会学 社会学基礎 II Module 人口の社会学 家族の社会学 ジェンダーの社会学 保健社会学基礎Module 地域社会保健福祉論 健康社会情報学 環境と健康 社会調査法基礎Module 社会調査論 I・II コンピュータ統計学
	<b>Advanced</b> Module Group	国際協力研究Module 国際機構論 国際協力戦略論 国際協力実践論 国際開発研究Module 持続的開発論 社会・人間開発論 地域開発論 グローバルリサーチ研究Module 地球環境と資源 自然災害とリスク管理 紛争・難民・平和構築 文化共生研究Module 国際文化関係論 多文化共生論 エンパワーメント論 文化芸術共創研究Module 文化芸術コミュニティ論 パフォーミング・アーツとコミュニティ スポーツとコミュニティ 特殊講義Module 特殊講義C (I・II・III)	グローバル戦略研究Module アジア新興国別戦略研究 I・II アフリカ諸国別戦略研究 中南米諸国別戦略研究 アジア経済研究Module 現代アジア経済史 アジア太平洋経済統合論 カントリーリスク論 アジアの産業研究Module アジアの農業 アジアの交通・物流 アジアの都市インフラ アジアのビジネス研究Module 国際経営戦略論 アジアビジネス論 ホスピタリティ研究Module ホスピタリティ論 アジアの観光 ツーリズムマネジメント 特殊講義Module 特殊講義M (I・II) 特殊講義S (I・II) 特殊講義B (I・II・III)	実践ジャーナリズム研究Module ジャーナリズム取材演習 ニュースライティング インタビュー演習 空間情報科学研究Module 空間の利用と立地 実践メディア研究Module 現代日本の論点 知的財産と公共性 メディアと思想潮流 スポーツ・エンタメ・メディア 応用空間情報学研究Module 応用空間情報学 I・II・III 特殊講義Module 特殊講義M (I・II) 特殊講義S (I・II) 特殊講義B (I・II・III)	応用社会学研究 I Module 共生の社会学 文化的社会学 教育の社会学 宗教の社会学 応用社会学研究 II Module 環境の社会学 域域の社会学 政治の社会学 福祉の社会学 応用社会学研究 III Module 現代社会論 現代思想論 国際比較論 応用社会学研究 IV Module 社会変動論 社会階層論 ソーシャル・ネットワーク論 応用社会調査法Module 社会調査法 I・II 社会調査実習 I・II 特殊講義Module 特殊講義S (I・II・III)
	<b>Capstone</b> Module Group	演習 IA・IB 演習 IIA・IIB 演習(卒論) インターンシッププロジェクト I・II リーダーシップワークショップ I・II			
	青山スタンダード科目	学部・学科の枠を超えた幅広い学問分野のエキスパートが、学びへの興味を喚起する全学共通教育システム			
	自由選択科目	専門科目・青山スタンダード科目・外国語選択科目(必要単位以上の履修)、他学部開講科目を自由に選択して学べます			

詳しくは、大学Webサイトをご覧ください

[コラボレーション領域]  
国際政治学入門  
福島 安紀子 教授

Pick up!



地球サイズの経験をお持ちの先生やゲストのお話から  
国際感覚を磨き、世界平和の手がかりをつかみたいですね。



1年 平松 賢  
静岡県立静岡高等学校出身

今、国際政治は大きな変化を遂げつつあり、グローバル化が加速しています。この動きを理解しなければ現実の地球社会を生きていくことはできません。地球社会の共生のために必要な国際政治の基礎理論と歴史を学習し、これを現実に起きている出来事に応用して理解する力を身につけます。また本科目では基礎学習の後に国際政治の最前線で活躍する方々の話を聞く機会も設け、国際情勢を理論と歴史の座標軸からつかむ能力を育みます。

[ビジネス領域]  
アジアの経済入門(英語講義)  
橋田 正造 教授

Pick up!



世界50ヵ国以上で経済発展の支援をされてきた  
先生の体験談はデータよりもリアルです。



1年 手島 麻友  
東京・私立クラーク記念国際高等学校出身

It is said that Asian economies will play the even more important role in world economy and occupy more than 50% of the world total GDP within another few decades. In this context, this course is designed for students to understand the basic characteristics as well as the challenges of the Asian economies. At the end of this course, students are expected to have more keen interests in further study on the Asian economies.

WebやSNSを駆使して次元の違う“地図”が作れる  
空間情報の可能性を実感できます。



1年 河原 正明  
岡山県立津山高等学校出身

[メディア/空間情報領域]  
空間情報システム入門 I  
Pick up!



あなたは場所の情報を正確に他人に伝えることができるでしょうか? 今、自分がいる位置、お気に入りのレストランの場所、小学校の学区エリア、インフルエンザが流行している場所。世の中に普及するさまざまな空間情報を適切にやり取りし、それらを組み合わせることで、どこで何が起きているのかを正確に判断することができます。そして、なにより地図のない開発途上国でも、自分の力で空間情報を作り上げるチカラを身につけます。

現代の課題に向き合い、文化人類学の視点で考え、アプローチできる力を身につけたいです。



1年 鈴木 里菜  
埼玉県立南稜高等学校出身

文化人類学は、主に異文化社会を対象とする研究を通して、人間とは何か、また人間の多様性と共通性というテーマに取り組んできました。人々の多様性は世界に豊かさをもたらすとともに、相互理解に関わる難題も生み出しています。文化人類学の思考やものの見方を学び、それを手がかりに、現代世界、現代社会のさまざまな現象や課題を読み解く糸口を探っていきたいと思います。

[ソシオロジー領域]  
文化人類学入門  
岡本 真佐子 教授

Pick up!



POINTS  
1

## 1年次は、ネイティブ講師による 90分×週6コマの英語集中授業 「Academic English」で徹底鍛錬

入学後すぐにクラス編成のための英語テストを実施します。一人ひとりのレベルに合わせた授業はネイティブ講師によりすべて“English Only”で行われ、英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランスよく学習。各段階でスキルを確認し、英語力のさらなる向上を目指します。



1クラス約20名の  
能力別少人数クラスで  
レベルに合わせて学習!

## 2年次は、90分×週4コマ 世界のどこでも“使える英語” 「World Englishes」を習得

アジアやアフリカ諸国を含めた世界で活躍するグローバル人材を目指すには、「World Englishes」を身につける必要があります。多くのアジア人が第二言語として用いる多様に変化した英語こそ、地球市民の新世代に求められるグローバル英語のひとつだからです。



POINTS  
2

## 徹底した 英語資格テスト対策

2年次後期までに海外留学に必要な英語資格スコアの修得を目指します。テストに不安をもつ学生のために、課外授業として対策講座も設置しています。

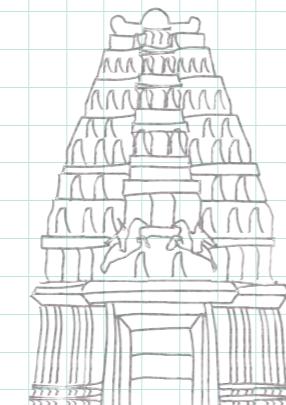
IELTS™

海外留学や海外移住で必要な英語力を判断するための英語資格テストのひとつです。1年次前期には学部生全員を対象にテストを実施します。

TOEIC®

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。学部生全員を対象に入学時、1・3年の終わりにテストを実施し、英語力の伸びを確認します。

目標は入学から  
1年間で  
TOEIC®100点アップ!!



### キャンパス内でも 異文化共生体験を

多くの留学生を迎えるGSCでは、キャンパス内のラウンジなどで、留学生との異文化交流を体験できる、さまざまな取り組みを実施していきます。



POINTS  
3

## 留学準備セミナー

留学中に直面する問題をシミュレーションを通じて考え、留学先でのリスクや精神的な負担をできるだけ軽減する方法を学ぶセミナーです。留学先で自分の能力を最大限に発揮するためのイメージトレーニングの場となっている授業を通して、留学に備えることができます。

受講することで  
充実した留学生活を  
送ることができます!



POINTS  
4

## 2年次後期、3年次前期 いよいよ半期海外留学(必須)へ

急成長を続けるタイやマレーシアなどの東南アジアを中心とした地域の大学へ留学し、海外フィールドワークを通してそのエネルギーを体感します。異文化との衝突や、異文化のなかでの成功体験を繰り返すことで、タフなグローバル人材へと成長できます。

### 学部間協定大学



チュラロンコン大学

1917年に設立されたタイ最古の歴史をもつ、権威ある国立大学。バンコク市中心部に位置しています。



タマサート大学

1934年に設立されたタイの難関国立大学。観光地として名高いタ・ブラン地区にあります。



ラマン大学(UTAR)

マレーシ亞において最も成長著しい高等教育機関のひとつ。学生数は2万人を超えてます。

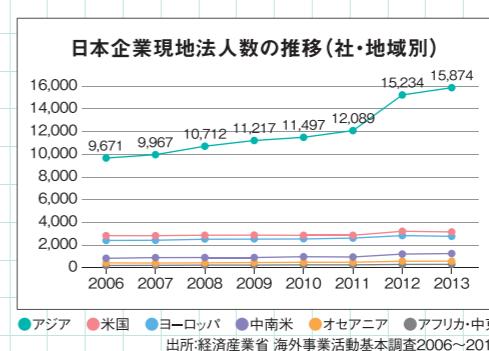


クアラルンプール大学(UniKL)

クアラルンプール市内中心部にある、産学連携が充実した大学。ヨーロッパの大学との学生交流も盛んです。

### 急成長するアジア経済を ダイレクトに体感

いま、ビジネスの拠点は欧米からアジアへ移ろうとしています。アジアの日本企業現地法人数も右肩上がりです。現地法人の地域別分布比率では、全地域の66.3%をアジアが占め、企業がアジアを舞台としたグローバル社会で活躍できる人材を求めていふことがわかります。



### 留学のセーフティネット

留学の安全を確保するためのサポート体制を整えます。現地駐在教員や、危機管理の専門家によるサポートなどのセーフティネットを構築します。



# 橘田 正造

地球社会共生学部 教授

# 村上 臣

ヤフー株式会社 執行役員  
CMOスマートデバイス推進本部長



村上 臣

**アジアの最前線から  
既存のフレームや先入観を問い合わせ直し、  
自分で判断できる教養を備えよう。**

**橋田** ヤフーのCMO(チーフモバイルオフィサー)として、国境や人種、世代を超えてさまざまなプロジェクトに取り組まれている村上さんですが、いまはインドとビジネスされているそうですね。

**村上** ソフトバンクとインドのBharti Airtelの合弁会社(Bharti SoftBank)とヤフーが設立した“Ignite World”で、2012年より取締役をしています。22の公用語が共存するインドのユーザーに向けて、モバイル・インターネットをどう使わせるか、企画から開発まで携わっています。毎月、渡印し、“インド英語でぶつかり合う”ようなミーティングに出席しています。

**橋田** そんなアグレッシブな村上さんは本学在学中にベンチャーを起業し、若いうちから海外を見てきたと思いますが、グローバルに活躍することを目指して学ぶGSCの学生は、どのようなことを心がけるべきだと思いますか？

**村上** まず何をしたいか、課題を見つけること

が大事ではないでしょうか。それを解決し、成し遂げるために必要なスキルを身につけることだと思います。それから世界中のいろいろな場所に行くことですね。環境を変えると新たに見えるものが必ずありますから。

**橋田** 学生に「どういう企業に就職したらいいのか」とよく聞かれますが、「何をやりたいのか、好きなことを選びなさい」と私も答えます。どんな仕事に就いても必ず壁にぶつかりますが、好きな仕事なら乗り越えられる。問われるのは自分自身の志は何かということです。村上さんは志を見つけるために何をしましたか？

**村上** さまざまなアルバイトを経験しました。

コンサートの警備やケータリング、秋葉原のPC店など、年代や国籍も関係なく人と付き合ふことや、英語を手当たり次第に読み、“外の世界”をとにかく吸収するクセをつけました。

**橋田** GSCではタイやマレーシアなどへの留学

1999年青山学院大学理工学部物理学科卒業。ヤフー株式会社に入社後、「Yahoo!モバイル」「Yahoo!ケータイ」などの設計・開発に従事し、モバイル関連技術のトップエンジニアとなる。2011年にヤフー株式会社を退社するも、翌年最年少執行役員としてCMOに就任。

が必須になっています。今の学生が30代、40代になった時にアジアが世界経済をリードする時代になっているだろうと予測しています。彼らがアジアで、また世界で活躍する人材になるために必要な気概や姿勢は何だと思いますか。

**村上** 相手国の文化を受け止めるオープンさと違いをリスペクトする精神が不可欠だと思います。でも、その前にまず日本の本質を勉強することが大事だと実感しています。互いの文化や歴史について語り合えると、いやがうえにも通じ合えます。

**橋田** 最後にGSCを目指す後輩たちにメッセージをお願いします。

**村上** こういうコンセプトの学部は日本にはほとんどないので、共感した人たちはぜひ飛び込んでみてほしいですね。伸びしろはあきらかにアジアがあるので、そこにフォーカスした学部で自分ならではの“世界”を広げてほしいです。

この対談の全貌はWebで！  
<http://www.gsc.aoyama.ac.jp>

## 想定される卒業後の進路

幅広い学びにふれることができるため、世界と取引・交流のある、あらゆる分野での活躍が期待されます。

### コラボレーション領域

国際機関、国際協力機構(JICA)などのODA関連の公的機関、国際文化交流機関・団体、国内外NPO・NGO、開発援助関連コンサルタント会社やシンクタンクなど。

### ビジネス領域

総合商社、インフラ関連建設業、観光・旅行、電気・ガス・エネルギー関連、不動産、金融・保険、グローバル取り引きのある各種製造業など。

### メディア/空間情報領域

ジャーナリスト、新聞・出版関連、テレビ・ラジオ関連、Webコンテンツ関連、広告・通信関連、空間情報コンサルタント、都市開発プランナー、地図ビジネス関連など。

### ソシオロジー領域

行政機関、学術・開発研究機関、出版・廣告マーケティング関連企業の調査部門、グローバルな取り引きに関するコンサルタント業、医療・保健・福祉分野など。



## 教員紹介

EPISODE  
海外での経験や思い出をヒトコト。

- ①…専門分野および関連分野
- ②…主な担当科目



EPISODE  
30年前、フィリピンのゲリラ地帯にひとりで2週間潜伏取材した時のことを今でも懐かしく思い出します。

会田 弘継 教授

- ①ジャーナリズム、思想史 ②ジャーナリズムの歴史、ジャーナリズム取材演習、グローバル世論動向論



EPISODE  
スリランカでは開発計画とエヌシク紛争の関係を、トルコではイスタンブルの文化政策を研究していました。

岡本 真佐子 教授

- ①文化人類学、文化政策学 ②フィールドワーク論、文化人類学入門、文化の社会学



EPISODE  
20代後半にタイの農民参加型事業で地元農民多数に取り囲まれ、お札を言わされたのが私の仕事の原点。その後世界50余国を巡りました。

橋田 正造 教授

- ①開発経済学 ②アジアの経済入門、アジア新興国別戦略研究I・II、貧困と開発



EPISODE  
南米最貧国ボリビアで日本の政府開発援助(ODA)プロジェクトを視察した際、日本の大使と間違えられ、大歓迎を受けました。

幸地 茂 教授

- ①国際関係論、ラテンアメリカの地域研究  
②国際機構論、国際関係論、中南米諸国国別戦略研究



EPISODE  
ブダペストで会ったニセ警察官。バスポートを出せと言うので、「じゃ、一緒に警察署へ行こう!」と返したら、悔しそうに逃げていきました。

高橋 良輔 教授

- ①政治理論、国際関係論、政治社会学 ②地球市民論入門、グローバリゼーションの社会学、現代思想論



EPISODE  
イギリス旅行中に食べた安い中華屋の炒飯。口に広がる何とも言えない安堵感。その瞬間、自分はアジア人なんだと実感しました。

林 拓也 教授

- ①経済史、経営史 ②日本経済入門、アジアビジネス論、アジアの言語と文化 III(近代タイ史)



EPISODE  
私の場合は学生ではなく研究者としての留学でした。休みごとに近くを旅行して回ったことが楽しい思い出です。

平澤 典男 教授

- ①公共経済学、法と経済学、数理社会学  
②経済学入門、国際経済学、共生の経済学



EPISODE  
1998年ボスニアで紛争予防を研究していた時、子ども達にせがまれて折り鶴を教えました。民族対立を超え一心に鶴を折る目的輝きは私の研究の原点です。

福島 安紀子 教授

- ①国際政治学、国際安全保障論、国際関係論  
②国際政治学入門、人間の安全保障論、国際文化関係論、紛争・難民・平和構築論



EPISODE  
米国と英国の大学院に約9年留学。世界の一流的な研究者にふれ国際基準を知ると自信につながり、日本が向かうべき方向性が見えてきます。

藤原 淳賀 教授

- ①キリスト教神学、倫理学 ②キリスト教概論 I・II、世界の諸宗教



EPISODE  
ブラジル北西の端、アクリ州。アマゾン川最上流部の大きさに圧倒され、河岸で飲んだビールとシュラスコの味も忘れられず。

古橋 大地 教授

- ①空間情報学、地図学 ②空間情報システム入門 I・II、空間情報デザイン基礎、空間情報の共有技術



EPISODE  
日本の社会科学の最大の課題は国際化です。そのためには「社会調査」「国際比較」「データ分析」が有効な方法であると確信しています。

真鍋 一史 教授

- ①社会学、社会調査論、コミュニケーション  
②社会心理学入門、社会調査論 I・II、共生の社会学、国際比較論



EPISODE  
海外で強烈に感じたのは大学の寮(国内ですが)。留学生とルームメイトとなり寝食を共にした経験は驚きと発見、楽しさの連続でした。

権島 榮一郎 准教授

- ①コンテンツ産業論 ②情報インパクト論入門、メディアの法律と倫理、文化資源とメディア



EPISODE  
留学中はすべてが新鮮で学びの連続でした。文化や言語の壁を越えて得た仲間や、さまざまなことに挑戦した経験は一生の財産です。

菊池 尚代 准教授

- ①メディア論、英語教育 ②メディア・コミュニケーション、グローバル社会メディア論、インターネット論



EPISODE  
タイに関わって約20年、特にバンコクの大学院に留学した時のさまざまな経験とそこでの出会いは、今でも大きな財産になっています。

齋藤 大輔 助教

- ①東南アジア地域研究・文化人類学 ②東南アジア地域社会論、比較文化論、アジアの歴史と文化



EPISODE  
海外生活で得た一番の宝物は、大学で出会ったクラスメイトや職場で一緒にいた同僚と、「文化の違い」を超えて築いた人間関係です。

平塚 広義 助教

- ①ダイバーシティマネジメント、紛争解決手法論 ②インターナショナルプロジェクト II、リーダーシップ論演習 I・II、研究手法論入門